

第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョン

委員アンケート 調査結果報告

令和8年5月実施

【領域A】美幌峠・屈斜路カルデラトレイル（以下KCT）関連 各団体の意見

① 現在の取り組み → ② 困っていること・課題

団体名	現在の取り組み	困っていること・課題
宮田博行 委員長	体験ツアーの企画運用、SNSでの情報発信、地元産品販売、KCT運営	人手・予算不足。観光振興以外の事業も多く注力できない。団体間の情報共有が不足
伊藤健一 委員	美幌峠レストハウスの運営・管理	観光広告・イベント予算不足。大型バス駐車場の整備・拡幅が必要。横断歩道の安全性
信太真人 委員	KCTの運営・管理、観光情報発信、プロモーション、体験・観光コンテンツ造成、観光案内・受入対応、地域連携・体制づくり、地域産品・地域経済との	KCTの運営管理に対する人員不足、維持管理や安全対策に係る財源確保、ヒグマ対策等の安全管理、二次交通の利便性不足、認知度向上と情報発信強化、役割分担や責任範囲の整理
泊り誠一 委員	美幌産農産物加工品・自家製生麺を道の駅に販売 「天下一食堂」で美幌産小麦を使用した麺を採用	他の事業者とつながる機会が少ない
田中桃子 委員	道の駅運営、地元産品販売、KCTグッズ販売、ツアーガイドの紹介、地元食材を使用した飲食メニューの提供	人手不足。インバウンド対応力の不足
滝川朗正 委員	KCTを活用した体験ツアーの企画・実施、美幌観光物産協会と連携したツアー、他のトレイルと連携した楽しみ方の提案、美幌峠ガイドツアーでの活用、ワタミ牧場環境共生サイト認定に係る環境調査への活用	ガイド不足・育成による受入体制強化、トレイル促進のため、美幌観光物産協会等と連携した事業展開、美幌観光物産協会の人手不足により、新たな事業展開が難しい、冬季観光客が美幌峠まで波及していない、観光資源を活かしきれていない
野口富弘 委員	ガストロノミー運営	必要な備品の用意に苦労している
奥山真由美 委員	記載なし	記載なし
小林明弘 委員	KCT体験ツアーの企画・運営・実施、運営事務局業務（HP・SNS発信、会議参加、問合せ対応、熊スプレーレンタル業務、冬季体験ツアー創出事業	現状の体制では人員不足により、体験観光に対応しきれない
幸田英治 委員	観光に伴うバスなどの運営企画	美幌峠までの公共交通の不便さ
円館綾子 委員	美幌峠から見える低緯度オーロラをアピールした製品を作り、全国に発信することで町おこしに繋げる	記載なし

【領域A】美幌峠・KCT関連 各団体の意見

③ 目標・ゴール → ④ やってきたい取り組み → ⑤ 連携したい取り組み

団体名	目標・ゴール	やってきたい取り組み	連携したい取り組み
宮田博行 委員長	美幌峠来訪者100万人。 峠での滞在時間を2時間増	峠での宿泊事業（雲海・星空）、KCT体験ツアー、みどりの村での体験事業×KCT連携、美幌峠と街中を結ぶサイクルツアー、二次交通システムを創る（空港発）	美幌産品・加工品の販売強化（美幌町農業協同組合）、美幌産品メニュー開発（食堂組合・飲食店）、アウトドアメーカーと連携した周遊事業（みどりの村）、二次交通・体験ツアー連携（バス会社・タクシー会社）、SNS・YouTubeを活用した誘客強化
伊藤健一 委員	美幌峠来訪者100万人	記載なし	来訪者目標をビジョンに明記し、アクションプランと予算措置を具体的に推進
信太真人 委員	KCT利用者の増加、安全で持続的運営、地域消費の拡大・リピーターや長期滞在利用の増加、北海道東トレイルと連携し認知向上	ガイドツアー・体験コンテンツ、美幌峠・周辺観光と連携した周遊・滞在型観光の推進、峠牧場未利用地や宿泊施策の活用、外国人旅行者を含めた受入環境整備と情報発信、ガイド人材育成	宿泊・飲食・体験事業者と連携した観光商品の造成、交通事業者と連携した周遊・二次交通整備、SNS・映像を活用した情報発信の強化、学校等と連携した自然体験・環境学習の推進、道東トレイルや関係機関との広域連携、地元と連携した地域商品の促進
泊り誠一 委員	観光客が増えることでの加工品の売り上げ増加	イベントによる販売会等	各事業者によるSNS発信に加え、美幌町全体で連携した情報発信が必要
田中桃子 委員	記載なし	記載なし	記載なし
滝川朗正 委員	KCTの環境負荷を考慮した利用促進、継続的利用者数把握やフィールド状況の検証、毎月10日程度のツアー	美幌観光物産協会等と連携したガイド育成・コンテンツ開発、冬季の美幌峠の認知拡大・誘致強化、津別・網走と連携した広域観光、網走宿泊の日帰り誘客から美幌宿泊につなげる取組	津別の事業者と連携したツアー造成・運営 網走市と連携した冬シーズンの観光パターン作り
野口富弘 委員	ガストロノミー利用者1日100人以上	料理づくりに興味を持ち、参加する人を増やしたい	宿泊施設の整備
奥山真由美 委員	記載なし	記載なし	記載なし
小林明弘 委員	学校行事や研修等での活用、企業研修等での利用促進、KCT年間1万人以上の来場、美幌峠での冬季体験型コンテンツ創出	地道にコソコソと内部関係者から取り組みに参加してもらおう	連携したい団体、「美幌町教育委員会」・「美幌町スキー連盟」・「美幌サイクリング協会」・「美幌博物館」・「美幌商工会議所」
幸田英治 委員	記載なし	記載なし	記載なし
円館綾子 委員	美幌が持つポテンシャルを引き出し、総じて北海道の自然と環境の価値を高め、新たな観光資源を創出	美幌町の星空を守り、次世代へと星を見える環境を残す	美幌峠における夜間照明について、意識の高いデザイナーの意見聴取

【領域B】回遊拠点 各団体の意見

① 現在の取り組み → ② 困っていること・課題

団体名	現在の取り組み	困っていること・課題
宮田博行 委員長	SNSによるPR、「きてらす」の運営委託管理	SNSを導入したばかりであり認知されていない
伊藤健一 委員	観光客滞在時間の増加対策、季節に合わせた飲食フェアを開催検討	フェアで使用する食材確保・品目選定に課題、農協と連携した農産物提供や機運醸成が必要、飲食店との連携や安定した食材供給体制、観光事業としての一体感のある取り組み
信太真人 委員	観光案内、情報発信、地域産品の物販、回遊・滞在促進対策など、地域連携、発券業務、石北線利用促進助成業務	交通・観光案内業務の負担が大きく、観光施策に十分取り組めない、二次交通不足・回遊性向上が課題、少人数による業務集中が課題、地域インフラを支える体制強化と町との連携が必要
泊り誠一 委員	町内店舗で美幌産農産物を使用した加工品の販売	他の事業者とつながる機会が少ない
田中桃子 委員	町内観光情報の問い合わせ対応	インバウンドへの対応
滝川朗正 委員	みどりの村でのバードウォッチングツアー・雪板ワークショップ	記載なし
野口富弘 委員	実施していない	記載なし
奥山真由美 委員	記載なし	記載なし
小林明弘 委員	ファットバイクを活用したモニターツアー、リリー山でスノーボード教室	ガイド人材不足、現体制では体験観光への対応に限界がある、スノーボードレンタル等の道具が不足している
幸田英治 委員	観光に伴うバスなどの運営企画	女満別空港から町内までの公共交通への課題
円館綾子 委員	みどりの村エリアでの観望会	みどりの村指定管理者との関係性

【領域B】回遊拠点 各団体の意見

③ 目標・ゴール → ④ やってきたい取り組み → ⑤ 連携したい取り組み

団体名	目標・ゴール	やってきたい取り組み	連携したい取り組み
宮田博行 委員長	町内での滞在時間を1時間増やす 美幌峠来訪者の3%（約1.8万人）を街中へ誘導	SNSで美幌町内の美味しい食をPR、きてらすの規模拡大	町内商店、食堂を回遊できるクーポン券、みどりの村の宿泊者を峠や街中へ誘導する仕組みづくり、食堂組合や飲食店と美幌町の食材を使用したメニュー開発
伊藤健一 委員	数値目標を設定し、計画的に事業を推進、観光戦略ビジョン事業として位置づけ具体的な推進	飲食フェア	特になし
信太真人 委員	市街地の滞在・回遊促進、美幌峠・KCT来訪者の地域消費拡大、駅案内機能・公共交通利便性の向上、周遊・地域消費の可視化	駅観光案内所の機能強化、美幌峠・KCTと市街地の周遊促進、滞在型観光・情報発信の強化、公共交通連携・KCT利用者の市街地誘導	宿泊・飲食・商店街と連携した周遊・滞在型観光促進、交通事業者と連携した二次交通整備、美幌峠・KCT利用者の市街地誘導、地域事業者と連携した特産品PR・地域消費促進、SNS等を活用した情報発信、関係施設・イベントと連携した回遊促進
泊り誠一 委員	観光客が増えることでの加工品の売り上げ増加	イベントによる販売会等	各事業者によるSNS発信に加え、美幌町全体で連携した情報発信が必要
田中桃子 委員	記載なし	記載なし	記載なし
滝川朗正 委員	雪板宿泊プランの催行増加	雪板作りと滑走体験を組み合わせ宿泊プランの販売拡大	記載なし
野口富弘 委員	記載なし	記載なし	記載なし
奥山真由美 委員	記載なし	記載なし	記載なし
小林明弘 委員	ファットバイクのシーズン利用者100名 スノーボーダー増によるスキー場の売上20%UP	ガイド・インストラクター人材育成、道具確保	記載なし
幸田英治 委員	記載なし	美幌峠から町内への観光客誘導	観光客の滞在時間帯を把握し、利用しやすい時間帯に合わせたイベント開催
円館綾子 委員	天文施設との調和を考慮した照明デザイン、みどりの村エリアを道東の夜間観光モデルの確立	光害への理解促進と星空環境の保全を図り、道東の観光資源としての価値向上	学校等と連携した天文教育・イベントを通じ、公害への理解促進、公害対策に配慮した照明デザインとの連携

【領域C】 地域資源 各団体の意見

① 現在の取り組み → ② 困っていること・課題

団体名	現在の取り組み	困っていること・課題
宮田博行 委員長	司厨士協会と町が実施している事業への参画、教育旅行への協力	司厨士協会と町が何をしたいか不明。宿泊や体験などの受け入れ態勢が不十分
伊藤健一 委員	特になし	特になし
信太真人 委員	観光・地域資源の情報発信やPR、地域産品・イベント・体験観光と連携した地域振興、学校・関係団体等との連携による地域理解促進	地域資源の活用・情報発信が不十分、業務負担により企画・連携が進みにくい、滞在促進・地域消費拡大への課題、情報発信体制・若い世代の参画強化
泊り誠一 委員	5～10月までJA事務所前で直売所を運営し地元野菜や加工品を販売、農村ツーリズム推進協議会への参画	記載なし
田中桃子 委員	問い合わせ対応（教育旅行などの問い合わせ有）	新規利用者を増やすためのPR手法が課題、スタッフ間で地域情報量の差、インバウンド対応情報の不足
滝川朗正 委員	網走川源流からオホーツク海サイクリングキャンプ	記載なし
野口富弘 委員	農業と食の連携事業	人手不足
奥山真由美 委員	地元食材を活用した手打ちそばの提供、地元農産品・工芸品を販売、パンフレット設置・無料送迎バスを実施	人手不足・従業員負担が課題、冬期間の売店の商品確保、交通手段の確保
小林明弘 委員	美幌観光物産協会でライターと契約し、Instagramで美幌町の魅力の発信中	記載なし
幸田英治 委員	記載なし	記載なし
円館綾子 委員	美幌高校と連携し、美幌峠のオーロラをイメージした土産品開発	記載なし

【領域C】地域資源 各団体の意見

③ 目標・ゴール → ④ やってきたい取り組み → ⑤ 連携したい取り組み

団体名	目標・ゴール	やっていきたい取り組み	連携したい取り組み
宮田博行 委員長	教育旅行・ツアー客年間1,000人誘致 峠の湯の利用客年間8,000人増	民間連携によるツアー誘致、宿泊商品開発、KCT連携、クーポン券やスタンプラリーによる町内回遊促進、美幌町の名物づくり	関係団体や事業者と連携した誘客体制づくり、KCT等と連携した宿泊・観光商品の開発、美幌峠での宿泊機能整備
伊藤健一 委員	特になし	特になし	農泊は美幌観光のイメージ戦略として全体で推進すべき
信太真人 委員	地域資源を活かした観光振興、体験コンテンツ充実・地域消費拡大、リピーター増加・利用状況の数値化	美幌の地域資源を活用した体験型・滞在型観光、地元食材や特産品を活用した地域ブランド化、教育機関・地域住民と連携した観光地域づくり	宿泊施設・飲食店・生産者等と連携した滞在型観光商品の造成。農業・酪農・畜産事業者と連携した食・農体験プログラム造成
泊り誠一 委員	JA直売所の来客数増加を目指したい	記載なし	町内飲食店等との機関を定めたコラボ
田中桃子 委員	記載なし	記載なし	新規に美幌町に関心を持ってくれる方を増やす仕組みづくり
滝川朗正 委員	記載なし	記載なし	記載なし
野口富弘 委員	関係者を増やし地域雇用創出	記載なし	企業を考えている人と一緒に事業を進めていきたい
奥山真由美 委員	峠の湯びほろ入浴者年間13万人	SNS活用による情報発信強化、RVパーク・ログハウスの予約体制の整備、冬季の入浴者確保	そば農家との連携強化、送迎バスの増便を検討したい
小林明弘 委員	Instagram毎月フォロワー50人増	記載なし	記載なし
幸田英治 委員	記載なし	記載なし	通過型観光の利点を活かして、軽食や手軽に食べれるものの名産化
円舘綾子 委員	地理・天文の視点から地域理解を深め、郷土愛や地域アイデンティティの醸成	光害への理解を深め、観光資源としての星空活用を考える機会づくり	町や物産協会と連携し、ふるさと納税や展示即売会での活用。道の駅と物産との連携（物産展などの開催）